

2022(令和4)年度 地域連携交流サロン キックオフイベント
「大学のボランティアセンターの取組について考える」
開催報告

日 時: 2023(令和5)年2月22日(火)18:00~20:00
会 場: キャンパスポート大阪
ゲストスピーカー: 松居 勇氏(大阪公立大学 ボランティア・市民活動センター(V-station))
企画・コーディネーター: 久 隆浩氏(大学コンソーシアム大阪 地域連携部会 推進委員会 推進委員長、近畿大学 総合社会学部 教授)
参加者数: 計 18 名
(内訳)大学関係者(教職員)3名、自治体関係者6名、企業・団体関係者6名、
学生2名(大阪公立大学、大阪市立大学)、一般1名
企画・運営: 大学コンソーシアム大阪 地域連携部会

1. 開催趣旨

大阪公立大学(旧大阪府立大学)のボランティアセンターが設置された経緯や仕組み、またセンターにおけるこれまでの様々な取組の実践を通じて得られた好事例や課題等を共有いただきながら、学生と地域をつなげる大学のボランティアセンターの在り方についてともに考える機会とする。

2. プログラム概要

(1) 話題提供

ゲストスピーカーの松居氏より、大阪公立大学 ボランティア・市民活動センターの取組について事例紹介があった。発表要旨は以下のとおり。

<ボランティアセンターについて>

・全国に 3,000 件程あるボランティアセンターの内、大学内に設置されているものは 150 件程、全国の大学数の約 1/5である。

<V-station の設立経緯・運営体制について>

・当初は大阪府立大学の松居氏をはじめとする学生有志のサークル活動として発足したが、活動の拡大や継続的な運営を目指し、2009 年に大学の部署として設置、2016 年より堺市の市民活動支援施設として位置づけられ、受託運営している。2022 年の大学統合を機に、大阪公立大学のボランティア・市民活動センターとなり、杉本キャンパスにも拠点を整備し、現在に至る。大阪公立大学の学生と市民が交流できる拠点としての側面も併せ持つ。
・教員・職員・学生で連携しながら運営している。

<V-station の取組および事例紹介>

① ボランティア募集者(受入先)と学生活動者の仲介(ボランティアコーディネーション)

活動者は登録制とし、住所や所属学部等の属性データを基に、適切な受入先の紹介を行う。年間の登録者は 100~200 名程度である。受入先は、大学側からは募集しておらず、自治体や PTA、商店街などから随時依頼があり、活動テーマ毎に分類している。多くの学生の協力を得るために、受入先にはどのような想いで依頼をしているのか、なるべく詳細に職員がヒアリングを行うよう心掛けている。

② プロジェクトの企画

行政・地域団体・市民等との協働による地域課題解決型のプロジェクト型の企画等を行う。一から企画を行うので学生の達成感は大きく、学生間で口コミが広がる等して年々数が増えている。

③ 学生発案の活動の立ち上げ支援

学生が普段感じている社会課題等をヒアリングし、協力者を探りながら活動を実施する。

④ 法人化等のボランティアグループの組織化、活動支援

- ⑤ 学びの場づくり「ボラがく」
様々な社会課題テーマを設定し、ボランティア受け入れ先がゲスト出演するオンライン講義のセミナーを定期的に開催。コロナ禍で実地での活動が制限されていたことが契機となり開催に至った。
- ⑥ 学生による出前授業
小中高生に対するボランティア啓発の取組として、大学生が講師として出前授業を実施。活動の実践も一緒にやっている。
- ⑦ 市民活動支援施設の運営
ボランティア同士の交流・情報交換の場となっている。仲間ができることにより、活動のハードルを下げることに繋がっている。
- ⑧ 地域防災イベントの開催など、災害時の活動支援
- ⑨ 他大学との連携・ネットワークづくり
堺市内や近隣の大学との繋がりがづくりや、全国の学生と意見交換を図る場づくりを行う。

<ボランティアとは>

- ・誰かの願いを実現するための手段である。
- ・学生には社会背景や依頼者の想いを意識し、主体的に考えながら活動するよう伝えている。
- ・参加動機は問わず、広く学生を受け入れている。

(2) 情報交換会

久氏のコーディネートのもと、事例紹介に対する質疑応答や、参加者間でのそれぞれの取組みに関し情報交換が行われた。主な内容は以下のとおり。

・取組の継続性について

V-station の中長期的なプロジェクト活動の期間は 1 年間が大半である。数年間継続する活動は、学生が入れ替わりながら継続している。松居氏のようなコーディネーターが居ないと継続は難しいと思われる。

・一から V-station を立ち上げた経緯や設立のノウハウについて

立ち上げ当初は他のボランティアセンターへヒアリングを行った。活動拠点となる場所が無かったため、イベント型のボランティアの窓口としてのボランティアセンターから始め、実績を重ねた。学生だけで運営する事例もあり、段階的に立ち上げることも可能である。あくまでも学生の自主的な活動を尊重し、大学・職員は支援する役割を取るのが良いのではないかと。

・学生ボランティアを依頼したい場合のコツ

V-station では依頼があれば学生への紹介は可能であるが、実際の活動に繋がっているものは半程度である。学生の参加率を上げるには、打合せや説明会をこまめに開催する等、依頼する側が丁寧であるほど良い。また、子供が関わる取組は学生の関心が高い傾向にある。依頼者に内容を指示され、「使われている」と感じるような依頼や、「担い手不足、高齢化」等のワードはあまり学生には響かない。学生にとって楽しいと思えることが第一の参加動機となる。

・公立大学の各キャンパス拠点の運営について

統合前は堺市内の依頼が 8 割であったが、統合後は大阪市内の依頼が増えた。専従の職員が 1 名のため、対応できる範囲で各キャンパス内を歩き来している。今後は各地域・大学でのコーディネーターの育成がより必要になってくるのではないかと。

・依頼先への継続的な学生の派遣について

基本的には卒業後は地域から離れることが多く、継続的な協力が得られにくい。一方で学生時代の活動が、町内会への参加等引き続き地域との関わりを持つきっかけになることもある。

閉会に際し、久氏より、「どのような学生に依頼したいか、何を依頼したいかを明確にすることが、マッチング率の向上に繋がる。」とのまとめが示された。また、「今後も定期的にこのような交流の機会を各地域・団体が設けて、大学や学生が気軽に参加できると良いのではないか。」との言葉で締めくくられた。



ゲストスピーカー：松居氏



コーディネーター：久氏



話題提供の様子



交流会の様子

3. 参加者アンケート結果

別紙「参加者アンケート」のとおり。

以上